

# 教育あきた 3月号

2023 No.756

## 特別支援学校職業教育フェアの様子

学習した専門的な知識と技能を生かします ~ビルクリーニング競技~



緊張しながらも丁寧に接客します  
~喫茶サービス競技~



時間と手順を意識して製作します  
~縫製競技~



**HOT VOICE** 秋田県教育委員会 松塚智宏教育委員…………… P 2

**TOPICS** 「風流踊」のユネスコ無形文化遺産登録…………… P 3

**事業紹介** ビブリオバトル2022 in AKITA …………… P 12~13

**SPOT** 県立美術館・近代美術館・あきた文学資料館…………… P 14~15



## ～ 教育委員就任にあたって ～

秋田県教育委員会 教育委員 **まつ つか とも ひろ**  
**松 塚 智 宏**

任期満了により退任した岩佐信宏委員の後任として、令和4年12月26日に松塚智宏さんが新たに教育委員に就任しました。今回は、教育委員就任に当たり、これまでの経験や教育への思いについて、本号に寄稿していただきました。

\*\*\*\*\*

この度、教育委員を仰せつかりました松塚智宏と申します。

普段は建築士として、建築設計事務所を大仙市で経営しております。「すべての人にもっと幸せを。」が企業理念で、子どもや大人、高齢の方や障がいを持っている方、一生に一度の皆の人生において、幸せと感じられる時間をより増やすことができるような「居場所」と「仕組み」づくりを考え、ナビゲートをしております。

またライフワークとして、20代後半から、学校でも家でもない、子どもにとって第3の居場所と言えるような場の運営や、臨床心理士の協力を頂き相談会を開くなど、困りごとを抱えた本人や家庭を支援するNPOに携わっております。

さて、秋田県内の人口減少は確実となり、経済活動の減少も予想されるこれから、秋田は何を目指していくのでしょうか。ICTの普及により社会の変化が急速に早まる今後、間違いなく重要なのは、「自分で考えて動く力」。秋田県の子どもは学力が高い、探求する力が高いと言われていています。学びが自分にとっての生きがいに繋がり楽しくなれば、大人になっても「秋田には何もない」と言わなくなるでしょうし、地域のために主体的に活動したくなる県民も増えてくると思われれます。教育は、秋田の未来づくりの要です。

秋田のために、微力ながら精一杯お役に立ちたいと存じます。至らぬ点もあるかと思いますが、よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



令和4年11月30日、モロッコで開催されたユネスコの政府間委員会において、「西馬音内の盆踊（羽後町）」「毛馬内の盆踊（鹿角市）」を含む日本の「風流踊（ふりゅうおどり）」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

**ユネスコ無形文化遺産とは？**

ユネスコ（国連教育科学文化機関）が、無形文化遺産保護条約に基づいて登録するものです。  
有形文化財を対象にした世界遺産に対して、伝統芸能や祭礼など形のないものを対象にしており、日本では歌舞伎や和食など22件が登録されています。

**風流踊とは？**

華やかな衣装や持ちもので、笛や太鼓などの囃子にあわせて踊る民俗芸能です。死者の供養、豊作祈願など人々の願いが込められています。  
24都府県の41件の行事が含まれています。

**西馬音内の盆踊**

にぎやかな調子の「音頭」と哀調をおびた「がんけ」の2種類からなり、囃子にあわせて流れるように優美に踊ります。

「端縫い」と呼ばれる衣装に、目深く被る編笠、しなやかな手振りと優雅な足さばきが特徴です。



※羽後町 提供

**毛馬内の盆踊**

大太鼓を先頭に踊り手が続く「大の坂」と七・七・七・五の言葉と歌で踊る「甚句踊り」の2種類からなります。

手拭いの頬被り、紋付きなどの衣装、ゆったりしたテンポで指先まで優雅さを演出します。



※鹿角市 提供

- 〔本県のユネスコ無形文化遺産〕
- 平成21年登録 大日堂舞楽（鹿角市）
  - 平成28年登録 「山・鉾・屋台行事」
  - 角館祭りのやま行事（仙北市）
  - 土崎神明社祭の曳山行事（秋田市）
  - 花輪祭の屋台行事（鹿角市）
  - 平成30年登録 「来訪神：仮面・仮装の神々」
  - 男鹿のナマハゲ（男鹿市）
  - 令和4年登録 「風流踊」
  - 西馬音内の盆踊（羽後町）
  - 毛馬内の盆踊（鹿角市）

秋田の子どもの健やかな成長のために ～就学前教育・保育の充実を～

# わか杉っ子! 幼児教育スタートプラン推進事業

— 令和4年度～令和6年度 —

県では、国の「幼児教育スタートプラン」を踏まえ、小学校以降の生活や学習の基盤につながる幼児期の教育の重要性について理解啓発を図るとともに、県内全ての子どもたちへの質の高い幼児教育の保障に向けて、市町村における幼児教育推進体制の充実強化を図ることを目的とした「わか杉っ子! 幼児教育スタートプラン推進事業」に取り組んでいます。

## 1 「学びに向かう力の育成」を図る幼児教育についての理解啓発

遊びを通して総合的に学ぶ幼児期の教育、幼児期の育ちと学びが小学校以降の学びや生活の基盤になることを理解していただくため、下記のリーフレットを作成しました。

## 2 幼児教育センターの機能強化

文部科学省の補助事業を受け、幼保推進課を幼児教育センター、北教育事務所及び南教育事務所をそれぞれ北・南サテライトセンターと位置付けております。取組として、各市町村における小学校との連携体制や支援が必要な子どもへの対応も含めた幼児教育の推進体制の実態を把握するための調査・分析を行いました。

## 3 教育・保育アドバイザー未配置市町村への研修・訪問支援

「わか杉っ子! 育ちと学び支援事業」による教育・保育アドバイザー配置市への支援に加え、未配置市町村に対しても公開保育や研修等の開催を支援しています。保育者の資質向上に向けた市町村独自の取組を促し、当該市町村における幼児教育推進体制の構築にもつなげていきます。



全県域への支援

## 理解啓発リーフレットについて

幼児期の教育の大切さに関する理解啓発を図るリーフレットを、新1年生の保護者や就学前教育・保育施設、小学校、関係施設に配布しております。

乳幼児期の自発的な活動としての遊びや生活の経験は、小学校以降の生活や学習の基礎となります。

小学校では、乳幼児期の遊びを通じた学びから教科等の学習を通じた学びになります。しかしながら、教育方法が変わっても乳幼児期において育まれた資質・能力は途切れることはありません。

秋田県教育庁幼保推進課保育情報サイト「わか杉っ子元気に! ネット」より、ご覧いただけます。

「わか杉っ子元気に! ネット」は  
こちらから→



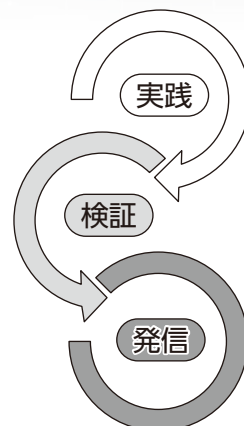
「もうすぐ1年生」～育ちと学びを未来につなぐ～

# ICTを活用した秋田の教育力向上事業

1人1台端末環境における秋田の探究型授業の一層の充実を図り、本県児童生徒の学力向上に資するため、ICTを活用した授業づくりの**実践**的調査研究（ICTを活用した授業改善支援事業）、研究の**検証**（ICT事業推進に係る検証改善委員会）、成果の**発信**（オンライン・ミーティング）を一つのパッケージとした施策をスパイラルな取組として展開しています。

本事業の展開にあたり、大館市立城南小学校、能代市立能代第一中学校、男鹿市立船川第一小学校、大潟村立大潟中学校、湯沢市立湯沢西小学校、横手市立横手南中学校には、推進校として調査研究等をお願いしており、今年度は、推進校を所管する市村教育委員会の域内の学校等を対象に授業研究協議会（授業公開）をそれぞれ開催してもらいました。

今年度の実践例の一部を紹介します。



## ICTを活用した授業改善支援事業

### ○ ICTを活用した学習の様子（小学校・国語）



筆者が挙げる複数の事例のうち、納得した事例の理由を説明しています。クラス内の傾向を一目で把握できることは、ICT活用の利点の一つと考えられます。

### ○ ICTを活用した学習の様子（中学校・保健体育）



タブレット上の寝技の画像を見ながら技をかけています。画像には実体験で気付いた技のポイントが言葉で書き加えられており、目標とする動きが捉えやすくなっています。

## ICT事業推進に係る検証改善委員会

### ○ オンラインによる会議の様子



各推進校の取組を検証し、成果と課題を明確にしました。有識者による指導・助言を踏まえて、今後の方策等を「学校改善支援プラン」にまとめます。

## オンライン・ミーティング

### ○ パネル・ディスカッションの様子



研究体制やICT活用の手立てについて、推進校の取組や全国の事例を基に話し合われました。視聴者からは、成果や苦労等を共有できたといった感想等が寄せられました。

## いのちの教育あったがエリア事業 推進地域・推進校の実践の紹介

本県の道徳教育の重点である「生命尊重・思いやりの心」を育てる教育を「いのちの教育」として本事業に位置付け、県内1地域において、学校と家庭・地域とが連携しながら、地域社会全体で命の大切さについての認識を高めるモデルづくりを行っています。

### 能代市 向能代小学校、東雲中学校区

「生命尊重・思いやり」を小・中学校共通の重点項目とし、校種間連携、体験・交流活動、地域人材の活用等を通して道徳教育の実践に取り組みました。

- 活動名：「小・中合同演奏会」（小・中学校）  
「ねぎの定植・収穫・調理」（小学校）
- 参加者：小学生、中学生、教職員、保護者、地域住民、市ねぎ課、JAあきた白神
- 内容：統合により閉校した旧常盤小・中学校の校舎で、小・中合同演奏会を行いました。バンド部、吹奏楽部が演奏を披露した後、保護者や地域の方と歌で交流しました。地域の方の喜びの声が、児童生徒の「地域の役に立った」という思いや自己有用感の醸成につながりました。小学校では、外部指導者と連携してねぎの定植、収穫を行いました。ねぎフェスティバルでは地域の方の手作りきりたんぽとねぎが入った鍋を堪能し、ふるさとへの愛着を深めました。



旧校舎での小・中合同演奏会



外部指導者と一緒にねぎの収穫

## 地域に根ざしたキャリア教育の一層の充実を目指して

令和4年10月25日に「令和4年度キャリア教育実践研究協議会」をオンラインで開催しました。県内の小・中学校、義務教育学校、高校、特別支援学校から116名が参加し、有識者による講演、実践発表、グループ別協議などが行われました。

### 有識者による講演

一般社団法人教育ソリューション研究協議会 理事 いくしげゆきえ 生重幸恵氏から、「キャリア教育を考える ～withコロナ社会で求められる、学校と地域の協働とは～」の演題で、学校と地域が協働して取り組むキャリア教育について、具体的な事例を交えてご講演いただきました。

### 実践発表

\*キャリアノート等の活用に発表内容を焦点化し、各学校における実践を紹介していただきました。具体的な取組事例を知ることができた貴重な機会となりました。

#### <実践発表校>

潟上市立天王中学校  
県立増田高校  
県立ゆり支援学校

### グループ別協議

「児童生徒が自らの成長を実感し、将来についての展望をもつことができるキャリアノート等の活用」という視点で校種混合のグループ別協議を行い、キャリアノート等の効果的な活用について考えました。

\*キャリアノート：子どもたちがキャリア教育に関わる諸活動について、記録し、蓄積することができるポートフォリオ的な教材

# デジタル人材を育てます

## デジタル教育 未来へRUNプロジェクト 講演会

1月23日、テレビ等でお馴染みのジャーナリスト池上彰氏による講演会が行われました。講演は今年度からデジタル探究コースが設置された4校\*の1年生をはじめ、全県の高中生や教員もオンラインまたはオンデマンド配信によって視聴しました。

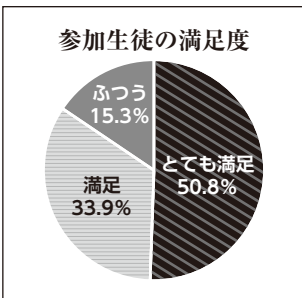
\*大館国際情報学院高校、仁賀保高校、湯沢高校、羽後高校



「デジタル社会を生きるために」と題して行われた講演では、私たちの日常生活や働き方、そして医療や農業などの様々な分野におけるデジタル化について分かりやすく教えていただきました。また池上先生から秋田県の高中生に対して、「デジタル化が進み大きく変わるこれからの社会を生きていく上で、どんなことにも対応できる基礎的な力を、今、身に付けてほしい」というメッセージがありました。今回の講演会は、これからのデジタル社会を担っていく高校生たちにとって、自分自身の将来や学校生活について真剣に考える良い機会となりました。

### ◆生徒アンケートより

☑ デジタル化した社会では、プログラミングや数学、基礎的な教養を身に付けることが大切だと分かったので、これからの高校生活に生かしていきたいです。



☑ AIの発達によって多くの仕事がなくなる話は知っていたけれど、新たに仕事が増えるということには気が付きませんでした。未来ある若者として、これからの社会をどうすべきか考えていきたいです。

☑ デジタル化がどんどん進んでいくこれからの時代には「どんな時にも対応できる力」と「嘘に引っかからない学力」がとても重要であることが分かったので、これから生きていく上で絶対に忘れず大切にしていきたいと思いました。

### ◆代表生徒たちの様子

お礼の言葉を述べた羽後高校の鈴木君は、「すべての人がデジタルの恩恵にあずかることができる社会を作るために、デジタル分野で貢献できる人材になれるようデジタル探究コースで頑張りたい」と決意を新たにしました。



主会場（県庁）で参加した各校の代表生徒は、講演後、新聞社やテレビ局の取材にも対応しました。

# 特別支援学校就労・職場定着促進事業

## ～職場定着、理解促進の取組より～

特別支援学校高等部卒業生の職場定着率の向上と、企業等の障害者理解の促進を目指し、令和2年度から3年間にわたって実施した「特別支援学校就労・職場定着促進事業」の主な取組と成果を紹介します。

### 職場定着の取組について

#### ◎事業推進拠点校の指定と職場定着対策会議の開催

県内3地区から県立特別支援学校各1校を1年ごとに指定した推進拠点校において、職場定着対策会議を開催し、卒業生の就労先事業所やハローワーク、障害者就業・生活支援センター等と、職場定着に関する意見交換を行いました。会議を通じて、事業所及び関係機関と連携した職場定着支援の要点や、在学中に育てたい力などを確認し、各特別支援学校が自校の教育活動の改善に生かしています。

#### ◎職場定着支援員の配置

事業推進拠点校のうち1校に、職場定着支援員を毎年度配置し、卒業生の就労先を訪問して勤務状況を確認するとともに、障害特性や合理的配慮の提供等に関する理解推進活動を行いました。各特別支援学校では、職場定着支援員が就労先の訪問で得た情報に基づき、手厚い追指導の実施に努めています。

### 理解促進の取組について

#### ◎職業教育フェア「特別支援学校技能競技会」の開催

特別支援学校高等部生の職業能力や職業教育の成果を披露し、一般企業や地域の皆様に広く理解していただくため、県内3地区で毎年1回職業教育フェア「特別支援学校技能競技会」を実施しました。競技には「ビルクリーニング」「喫茶サービス」「縫製」の各部門があり、各校から選ばれた選手が技能を競い合いました。技能競技会を見学した一般企業の方からは「日頃の学習の成果が出ていた」「丁寧な作業に感心した」などの感想を頂きました。今後も、特別支援学校の生徒の活動の様子を発信する場や方法を工夫し、障害者理解の促進を図っていきます。



お客様とのコミュニケーションを大切に  
～喫茶サービス競技～



生徒たちの「働きたい」、  
卒業生の「働き続けたい」を  
応援してください。

問合せ先：教育庁特別支援教育課 Tel.018-860-5135



理解推進  
パンフレット



医療的ケアが必要な子どもたちをサポートします

# 秋田県における特別支援学校の医療的ケアについて

秋田県では、経管栄養等の医療的ケアを必要とする幼児児童生徒が通学する特別支援学校に看護師を配置することにより、安心・安全な学習環境の整備と、医療的ケアに対する保護者の負担軽減に努め、幼児児童生徒の教育の充実を図っています。

## ○医療的ケアの実施状況

特別支援学校の医療的ケア児の人数 (令和4年5月1日現在)		
対応者別人数		
68人 ※県立特別支援学校 在籍の幼児児童生 徒数の約5.4%に 該当する。	学校看護師	25人
	家族、本人	22人 (在宅訪問教育対象者 等)
	病院看護師	21人 (病院訪問教育対象者 等)

主な医療的ケアの内容
経管栄養*、たんの吸引、導尿（介助）等
*経管栄養 口から食事を摂取することが困難になったり不十分になったりした場合に、チューブやカテーテルを用いて、胃や腸に直接栄養を取り入れる方法。

## ○安心・安全な医療的ケアの実施に向けた取組

保護者との共通理解を図るために、学校では、送迎時や連絡帳を活用した日常的な情報交換のほか、「保護者連絡会」等を定期的に開催しています。県では、県医師会や県看護協会、県医療的ケア児支援センターと連携し、「主治医巡回指導」や「看護師研修会」等を実施しています。



経管栄養による注入の状況確認～主治医巡回指導より

## カブトムシからホウレンソウへ？ SDGs野菜「ヘラクレスベジタブル」認定マークロゴデザイン決定

### ここがすごいぞ！SDGs野菜

1月12日、県教育庁で「ヘラクレスベジタブル」認定マークロゴデザインの表彰式が開催された。

「ヘラクレスベジタブル」とは何か。

Pilz(株)と(一社)Sail on Japanが共同し商品化した全国初のSDGs野菜であり、仕組みはこうだ。

椎茸栽培で生じる廃棄物「廃菌床」、これを餌にカブトムシが飼育される。そのカブトムシが出したフンを肥料として野菜が育てられ、「ヘラクレスベジタブル」として商品化される。まさに、「循環型ビジネスモデル」とも呼ぶべき取組なのである。



椎茸→カブトムシ→野菜 の循環イメージ

### 佳作揃いの600点から 採用された作品は…

昨年秋、県内の小中高生を対象に、ロゴデザインが募集され、全県から約600もの作品が寄せられた。いずれも劣らぬ作品群の中から採用されたのは、新屋高校1年和田菜那さんの作品。「シンプルな絵を心がけた」と語る彼女の作品は、ヘラクレスオオカブトの特徴を捉えた美しいデザインである。

新屋高校は第1期秋田県SDGsパートナーに登録されており、地域貢献活動やSDGsに関連した教



和田さんの採用作品。このシールが貼られた野菜は、今年6月頃からスーパー等の店頭で並び予定。



表彰式の様子。  
安田浩幸教育長(左)と和田菜那さん。

育活動を推進している。経済・社会・環境等に諸課題を抱える現代社会において環境教育の重要度は増しており、県教育委員会では今後も、学校教育の中での環境教育を推進していく。

### SDGsとは？

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称。県では、SDGsの達成に意欲的に取り組む県内の企業や団体等を登録・PRする「秋田県SDGsパートナー登録制度」を創設し、SDGsの推進を図っている。

郷土あきたの教育への提案

# 第37回 秋田県教育研究発表会

第37回秋田県教育研究発表会が、2月2日に、秋田県総合教育センターで開催されました。これは本県教育の振興を目的として、県教育委員会と総合教育センターが実施しているもので、今年度は3年ぶりに集合型での開催となり、県内外から約200名が参加しました。研究発表会のコンセプトである「郷土あきたの教育への提案」の下、熱心に研究協議が行われました。

## センター研究発表

共通テーマ「令和の新時代における秋田の教育」

総合教育センターでは、本県の教育課題の解決に向けて様々な角度から研究に取り組んでいます。今年度は、情報モラル教育、教科指導、特別支援教育について、2年計画の1年次の発表を行いました。

### センター研究1【情報モラル教育】

#### 情報モラル教育の充実に向けた指導プランの提案

情報社会を生き抜くための資質・能力を身に付けるため、短時間で継続的に取り組むことができる情報モラル教育に関する指導プランについての研究です。1年次は、アンケート調査による実態把握とその分析、情報モラル学習活動例について発表しました。

### センター研究2【教科指導】

#### 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善

各教科等における資質・能力の確実な育成に向けた、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点による授業改善についての研究です。1年次は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から学習指導案を検討した研修講座での様子を中心に発表しました。

### センター研究3【特別支援教育】

#### 特別な支援を必要とする児童生徒のためのICTを活用した指導・支援の工夫

特別な支援が必要な児童生徒のため、教職員がICTを活用して指導・支援を行う方法についての研究です。1年次は、研修講座で実施したアンケート調査や、講座内での協議・演習を基にまとめた、指導・支援におけるICTの活用事例について発表しました。

## 研究発表（口頭発表）

すぐれた研究成果の発表

各学校や県教委、市教委等から計23件の研究発表が行われました。

国や県の委託研究、大学院や長期社会体験研修における研究、総合教育センター研修員による研究等、多様な立場から先進的な研究成果が発表されました。



口頭発表の様子

### 参加者の声

- ・他校の取組を知ることができ有意義だった。取り入れてみたいことが多くあった。
- ・様々な分野の意欲的な取組を聞いて、刺激になった。

## 講演

子どもを主語にする学校をめざして～学習指導要領と令和答申から～

講師：独立行政法人教職員支援機構理事長  
中央教育審議会初等中等教育分科会長  
荒瀬 克己 氏



荒瀬 克己 氏

学習指導要領と令和3年答申を基に、言葉の捉え方や、具体的な取組について示唆に富むお話をいただきました。これからの社会に求められる学校教育の姿や教師の在り方について、理解を深める機会となりました。



講演の様子

### 参加者の声

- ・子どもが主体であることを改めて考えさせられました。
- ・答申の内容をよく理解できました。
- ・教育に対する考え方を考えていかなければならない時代だと思いました。

## 県立図書館 新事業「休館日を活用した図書館見学」

県立図書館では、特別支援学校を主な対象とした「休館日を活用した図書館見学」を今年度新たに開始しました。

### 1. 実施のねらい

県立図書館では、これまで多くの児童生徒が図書館司書の仕事体験や読書体験、貸し出し体験を行ってきました。特別支援学校の施設見学では、初めて県立図書館の閲覧室に入った多くの児童生徒から本がたくさんある空間を喜ぶ感想が届けられ、図書館の仕事や本に対する関心の高さがうかがえました。一方、引率する先生方は、静かな閲覧室で気を遣いつつ、密な状態を回避するなど、苦勞しながら引率している姿も数多く見られました。そこで、以下の3点をねらいとして、この事業を立ち上げました。

- 密を避けた環境で気兼ねなく図書館を利用できる。
- 読書への意欲を高める。
- 将来の図書館利用の基礎を学ぶ。

### 2. 実施内容と実施までの流れ

各学校の希望に応じて、①館内見学 ②閲覧室での読書体験 ③貸し出し体験のうち、1つまたは複数を組み合わせて実施することにしました。

学校からの申し込みを受けた際に、参加する児童生徒と引率者の人数、希望する日時と実施内容、児童生徒の状況と図書館側で必要なサポート、学校から図書館までの移動手段などを確認します。場合によっては、事前に先生方に足を運んでもらい、当日の打ち合わせやスクールバスの乗降場所、閲覧室までの経路、訪問時に注意する点などを確認します。

### 3. 秋田きらり支援学校の訪問

令和4年7月13日に県立秋田きらり支援学校の小学部7名と高等部2名の訪問がありました。見学申し込みの際に、訪問する児童生徒の9割が車いすを使用すること、小学部の児童はスクールバスの乗降に時間がかかることが分かっていたため、5月下旬に先生方が下見のため訪問し、バスの乗降場所や移動経路、配慮が必要な点などを一緒に検討しました。

当日、児童生徒はエントランスホールで図書館の説明を聞いた後、スロープを使って2階に移動し、閲覧室内の見学に続いて、読書体験をしました。分からないところを職員に積極的に質問する様子や、司書がOPAC\*を使って検索の手伝いをする場面も見られました。最後にカウンターで貸し出し処理を終えると、嬉しそうに本を抱える姿も印象的でした。

\*OPAC (Online Public Access Catalog) …オンライン蔵書検索システム



先生と借りる本を探す児童



本の貸し出し体験

～人を通して本を知る  
本を通して人を知る～

# ビブリオバトル

## 「ビブリオバトル」とは？

発表者がお薦めの本の魅力を5分間で紹介し、2～3分のディスカッションの後、聞いていた人たち全員で「一番読みたくなった本」（チャンプ本）を投票で決める知的書評合戦です。

ルールは簡単！「読みたい！」と思わせた人が勝ち



ビブリオバトル公式ルール (ビブリオバトル普及委員会 <https://www.bibliobattle.jp/home>より)

## ビブリオバトル 2022 in AKITA

秋田県では中学生・高校生を対象に、ビブリオバトルを開催しています。

令和4年度の秋田県大会（ビブリオバトル2022 in AKITA）は、令和4年11月23日に秋田拠点センターアルヴェ「きらめき広場」で開催しました。県内7か所での地区大会を勝ち抜いた中学生7名、高校生7名の発表者（バトラー）が熱い戦いを繰り広げ、小学生から一般の観覧者の投票によって、中学生・高校生のチャンプ本が決定しました。



### 👑 中学生の部

『むらさきのスカートの女』（今村 夏子／著 朝日新聞出版）  
三種町立山本中学校 櫻田 雅さん

**ビブリオバトル 2022  
in AKITA  
チャンプ本**

### 👑 高校生の部

『告白』（湊 かなえ／著 双葉文庫）  
県立大館鳳鳴高校 館花 茉莉江さん



## 📖 「ビブリオバトル」で新たな本に出会う！

これまでの「ビブリオバトル in AKITA」で紹介された本は、秋田県公式ホームページに掲載しています。県内中高生がどんな本を読んでいるのか、のぞいてみませんか？

「ビブリオバトル in AKITA」について

ビブリオバトル in AKITAで紹介された本

これまでのビブリオバトル in AKITAで中学生・高校生が紹介した本についてはこちらをご覧ください

- ・ [ビブリオバトル in AKITA 紹介本 \(中学生の部\)](#)
- ・ [ビブリオバトル in AKITA 紹介本 \(高校生の部\)](#)

これまでの県大会

- ・ [ビブリオバトル2021 in AKITA](#)
- ・ [ビブリオバトル2020 in AKITA](#)
- ・ [ビブリオバトル2019 in AKITA](#)
- ・ [ビブリオバトル2018 in AKITA](#)
- ・ [ビブリオバトル2017 in AKITA](#)

地区大会で紹介された本はこちらから！

歴代チャンプ本、準チャンプ本はこちらから！

ビブリオバトル in AKITA

読みたい本が見つかったら、県立図書館ホームページにある「秋田県内図書館横断検索」で、県内の複数の図書館の所蔵状況を確認することができます。

利用については、お近くの図書館にご相談ください。



秋田県内図書館横断検索  
Find books from libraries in Akita Prefecture

フリーワード

詳細検索

▲能代地区大会で紹介された本の展示  
(能代市立能代図書館)

秋田県内図書館横断検索

## 📖 「ビブリオバトル」に参加したい！

令和5年度の「ビブリオバトル in AKITA」開催日程については、決まり次第、秋田県公式ホームページでご案内します。

発表者（バトラー）の募集は中学生・高校生のみを対象としていますが、どなたでも自由に観覧できます。是非チャンプ本を決める投票にご参加ください。

### 【地区大会問合せ先】

大会名	北鹿大会	能代大会	秋田大会	由利本荘大会	大仙大会	横手大会	湯沢大会
問合せ先	教育庁北教育事務所 TEL 0186-62-1217		教育庁生涯学習課 TEL 018-860-5184		教育庁南教育事務所 TEL 0182-32-1101		

# 乙女デザイン —大正イマジユリィの世界—

多彩な大衆文化が開いた大正～昭和初期。印刷技術の進歩とともに、様々な書籍や印刷物の図像（イマジユリィ）が、人気画家たちによって描かれ、人々の心を魅了しました。この時代のイマジユリィは、現代のデザインやイラストレーションの原点であるとともに、レトロでノスタルジックな大正ロマンの雰囲気を感じさせるアートとして、現在も幅広い世代に愛されています。

本展では、この時代に一世を風靡した竹久夢二、当時のファッション・リーダーとしても活躍した高島華宵、アール・ヌーヴォー様式の橋口五葉、アール・デコに取り組んだ杉浦非水や小林かいち、そして、秋田市出身の橋小夢など、日本のデザインに大きな影響を与えた画家たちの仕事を紹介します。

会 期：令和5年4月22日（土）～7月2日（日）※会期中無休  
開館時間：10：00～18：00（最終入館 17：30）  
会 場：秋田県立美術館 3階ギャラリー  
（秋田市エリアなかいち内）  
観 覧 料：一般 1,000円、高・大学生 800円、中学生以下無料  
主 催：秋田県立美術館、ABS秋田放送  
監 修：山田俊幸（元帝塚山学院大学教授）  
協 力：大正イマジユリィ学会、秋田県立図書館、あきた文学資料館  
お問合せ：秋田県立美術館 ☎018-853-8686



竹久夢二  
「涼しき装ひ」  
『三越』第十五巻六号より

## 秋田の現代俳句 — 新興俳句から戦後俳句へ —

新興俳句は、昭和6年、『馬酔木』の水原秋桜子が『ホトトギス』を離脱したことにはじまる。やがて、『天の川』の吉岡禪寺洞、『京大俳句』の西東三鬼、『旗艦』の日野草城などが大きなうねりをつくるが、戦時下の重圧により逼塞を余儀なくされた。戦後、活動を再開した俳人たちは、失われたときを取り戻そうとするかのように戦後俳句の時代を築いてゆく。

こうした一連の動きに、秋田の若い俳人たちは果敢に呼応するのであった。

会 期：令和5年3月15日（水）～4月30日（日）  
休 館 日：毎週月曜  
開館時間：10：00～16：00  
会 場：あきた文学資料館  
〒010-0001 秋田市中通六丁目6-10  
入 館 料：無料  
お問合せ：あきた文学資料館 ☎018-884-7760



## 縄文 [小川忠博写真展]



「岩偶 秋田県白坂遺跡出土」

日本各地で多彩な出土品を撮影する写真家・小川忠博の写真展です。全国延べ2,000か所以上で、膨大な量の出土品を撮影してきた小川。対象の表情を詳細にとらえたその作品は、考古学・美術分野の研究に寄与するほか、『縄文美術館』『土偶美術館』等の書籍となり、ひろく縄文美の多様さと魅力を伝え続けています。

本展では、今年撮影された最新の作品を含む200点以上の作品を大型パネルで紹介すると共に、県内の有名土偶など実物の出土品も複数展示します。小川によって見いだされた縄文時代の多様な美の世界を、体感してお楽しみください。

※会場内の写真撮影・SNS掲載が可能です。※動画撮影、三脚の使用はご遠慮ください。

会 期：令和5年4月22日(土)～6月30日(金) ※会期中無休  
 開館時間：9：30～17：00 (最終入館 16：30)  
 会 場：秋田県立近代美術館 5階展示室 (横手市)  
 観 覧 料：一般 1,000円、高・大学生 800円、中学生以下 無料  
 主 催：縄文写真展実行委員会 (秋田県立近代美術館・AAB秋田朝日放送)  
 お問い合わせ：秋田県立近代美術館 ☎0182-33-8855

### information

## お知らせ

県内の教育施設等で開催される  
 主なイベントなどを紹介します。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、開館スケジュールの変更やイベントを中止する場合があります。詳しくは各施設にお問い合わせください。

### ☆秋田県青少年交流センター☆

TEL 018-880-2303

#### 秋田県青少年交流センター(ユースパル) の施設利用を再開します!

利用を休止しておりました秋田県青少年交流センターですが、令和5年4月1日から再開します。皆様のお越しをお待ちしておりますので、是非ご利用ください。

### ☆県立博物館☆

TEL 018-873-4121

#### 企画展「秋田藩の絵図 -描かれた城と城下町-」

4月29日(土)～6月11日(日) 9:30～16:30

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)

観覧料：無料

江戸時代の秋田藩の城絵図を一堂に集めて展示し、城下町の特色や絵図の魅力を紹介します。

### ☆近代美術館☆

TEL 0182-33-8855

#### 企画展「横山津恵デッサン展」

2月11日(土)～4月16日(日) ※会期中無休

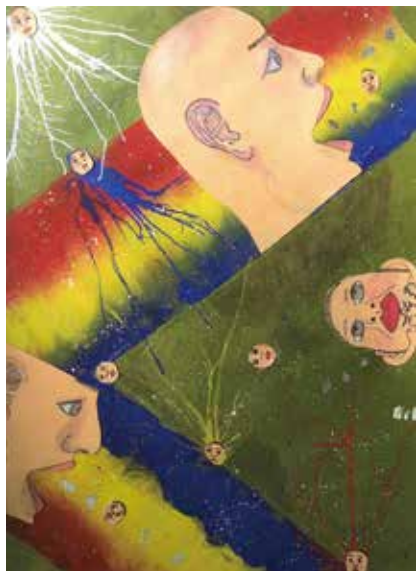
観覧料：無料

秋田市出身の日本画家・横山津恵(1916-2007年)のデッサン展を開催しています。本展では横山津恵のデッサンと日本画作品、あわせて関連する作家の作品をご紹介します。



# 秋田県特別支援学校文化祭作品紹介

秋田県特別支援学校文化祭（「第20回わくわく美術展」と「令和4年度みんなの写真展」）が、秋田市にぎわい交流館AU等を会場に開催されました。「わくわく美術展」絵画作品部門821点、自由作品部門72点、「みんなの写真展」406点の応募作品の中から最優秀賞を受賞した作品を紹介します。



「Uワールド」  
大曲支援学校高等部 3年  
糸井 優真



「かんとぅをもち上げている子ども」  
秋田大学教育学部附属特別支援学校  
塚田 大雅  
第29回全国特別支援学校文化祭に出展し、  
りそなグループ賞を受賞しました。  
中学部1年



「チューモンノオイリョーリテン・リローデッド」  
秋田きらり支援学校 高等部3年  
佐藤 大地、高野 竜汰



「ゆり支援学校とぼくらの未来」  
ゆり支援学校 中学部2・3年  
阿部悠翔、大友昭仁、鎌田琉花、佐藤信太郎、鈴木正美、  
堀内凜花、上山杏里、木内結夢、工藤希斗、今野志保、  
佐々木斗真、佐藤恋桜、宮本瑛久、工藤大翔、小杉俊弥、  
小松英弥、今 小桃、齊藤愼矢、佐藤陽香、三浦洸生



「仲よし4人組」  
支援学校天王みどり学園 高等部3年  
大沢 明日野



「水筒からしゅうちゃん」  
比内支援学校高等部3年  
小出 遙俊

■「教育あきた」は、県の教育関連施設や市町村の公民館、図書館等に設置しています。  
また、県公式ウェブサイト「美の国あきたネット」からもご覧いただけます。

この印刷物は4,800部作成し、印刷経費は1部当たり24.85円です。



この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

令和5年3月22日「教育あきた」No.756  
発行・秋田県教育委員会  
編集・秋田県教育庁総務課  
〒010-8580 秋田市山王三丁目1-1  
TEL.018-860-5112 FAX.018-860-5851  
Eメール soumu-edu@pref.akita.lg.jp  
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/education>